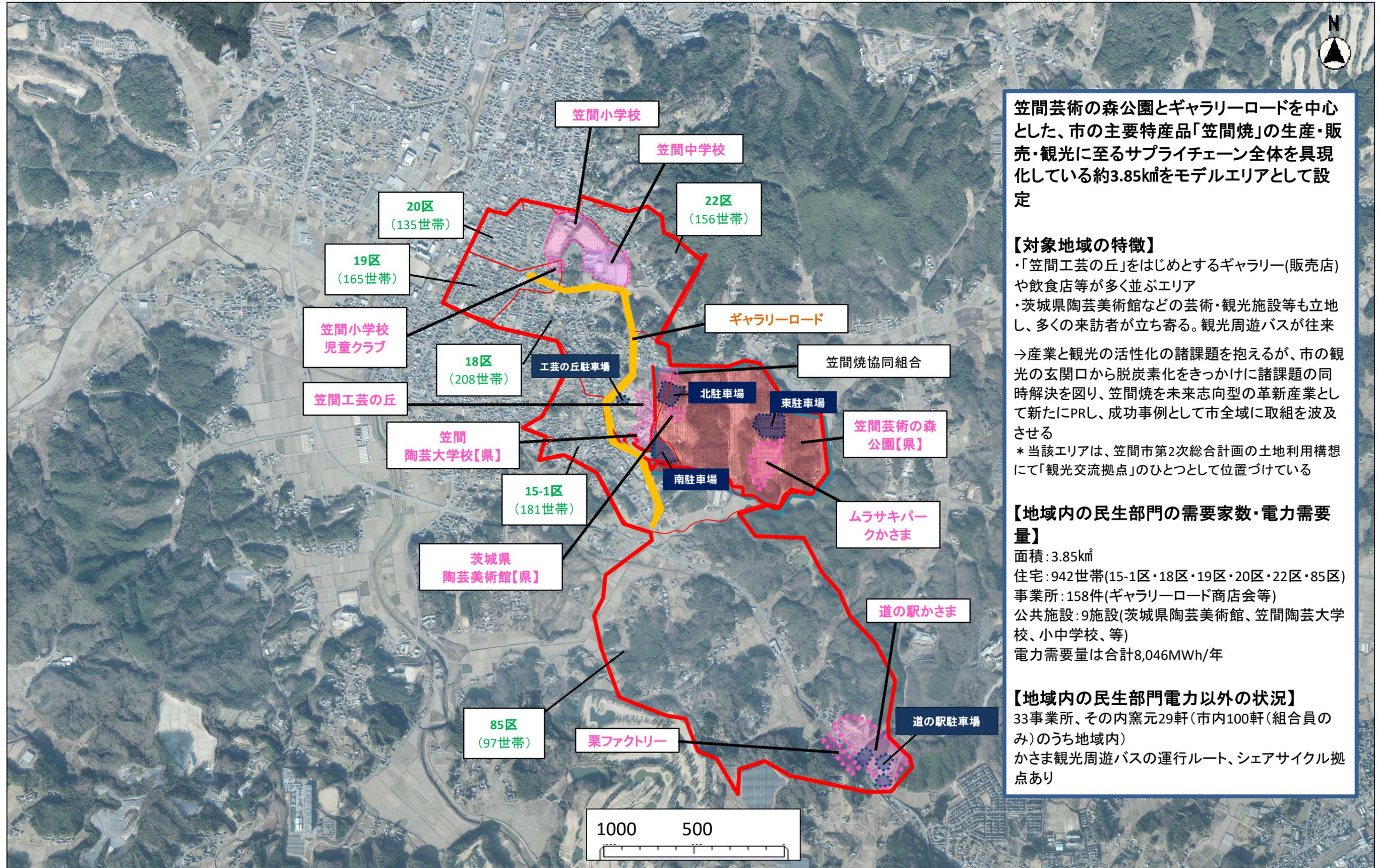


(別紙1)モデルエリア位置図



笠間芸術の森公園とギャラリーロードを中心とした、市の主要特産品「笠間焼」の生産・販売・観光に至るサプライチェーン全体を具現化している約3.85km²をモデルエリアとして設定

【対象地域の特徴】

- ・「笠間工芸の丘」をはじめとするギャラリー(販売店)や飲食店等が多く並ぶエリア
- ・茨城県陶芸美術館などの芸術・観光施設等も立地し、多くの来訪者が立ち寄る。観光周遊バスが往来

→産業と観光の活性化の諸課題を抱えるが、市の観光の玄関口から脱炭素化をきっかけに諸課題の同時解決を図り、笠間焼を未来志向型の革新産業として新たにPRし、成功事例として市全域に取組を波及させる

* 当該エリアは、笠間市第2次総合計画の土地利用構想にて「観光交流拠点」のひとつとして位置づけている

【地域内の民生部門の需要家数・電力需要量】

面積: 3.85km²
住宅: 942世帯(15-1区・18区・19区・20区・22区・85区)
事業所: 158件(ギャラリーロード商店会等)
公共施設: 9施設(茨城県陶芸美術館、笠間陶芸大学校、小中学校、等)
電力需要量は合計8,046MWh/年

【地域内の民生部門電力以外の状況】

33事業所、その内窯元29軒(市内100軒(組合員のみ)のうち地域内)
かさま観光周遊バスの運行ルート、シェアサイクル拠点あり